

おへそのヘルニアさい（臍ヘルニア）



どんな病気？

へその緒が付いていたお腹の筋肉の部分がうまく閉じず、腸管などの内臓が飛び出した状態です。

発生率は人種により差があり、アフリカ系の人では3割近くにみられるとの報告があります。日本の赤ちゃんではそれより少ないですが、未熟児ほど多い傾向にあります。

へその緒の切り方が悪かったからなるわけではありません。

症 状

普段からおへその部分が盛り上がっていますが、泣いたり息んだりした時にはさらに飛び出します。ピンポン球くらいの大きさになることもあります。

生まれて直ぐには目立たず、数週間してからはっきりしてくることがよくあります。一般に不快感はないとされ、触っても痛がる様子はみられません。押し込むとグジュグジュした感触があり引っ込みますが、また直ぐに元に戻ります。

経 過

大きさにもよりますが1歳までに約80%、2歳までに約90%が自然に治るといわれています。

逆にいいますと、2歳くらいでは臍ヘルニアのお子様の10人に1人がそのまま治らずにいるということになります。

ただ「大人の臍ヘルニア」（妊娠や肥満などが原因となる）と違って嵌頓（かんとん：腸管がはまり込んで元に戻らなくなった状態）の心配はほとんどないのでも2歳くらいまで様子を見ることも多いです。

治 療

昔から硬貨をおへそに当ててテープで止める方法があったようですが、感染やかぶれ、金属アレルギーを起こす可能性がありお勧めできません。

近年では「圧迫療法」といってスポンジや綿球をおへそに当てて、医療用の粘着テープ／シートを貼る方

法が行われています。テープ／シートの進歩により、はがれにくい上にかぶれにくく、肌質にもよりますが1週間くらい貼りっぱなしでも大丈夫です。お風呂にも入れます。

嵌頓（かんとん）して戻らなくなった場合や2歳になっても治る様子がない場合は、手術が必要になります。

気をつけたいこと

大きな臍ヘルニアでは自然に治っても、余った皮膚がだぶついてしまいます。また、治療を受けないまま治癒せず小学生くらいになると、水泳の時にコンプレックスを感じたり、いじめを受けたりする可能性がありますので「適切な時期」に「適切な治療」を受けられるようにしてあげましょう。

「圧迫療法」につきましては、早期に開始した方が治りが良いことが分かってきました。4ヵ月健診で臍ヘルニアを指摘されましたら、かかりつけの医師に一度相談されることをお勧めいたします。

- ※ ヘルニア門（臍ヘルニアの出口）が大きい場合、「圧迫療法」では治癒に時間がかかったり、治癒に至らない場合があります。
- ※ すべての小児科医が「圧迫療法」をおこなっているとは限りません。

一筆者紹介

こいけ ひでき
小池 秀樹



1969年生まれ、群馬県出身。

1998年 香川医科大学医学部卒業。

東海大学医学部専門診療系小児科学 助教。

東海大学医学部附属大磯病院 小児科所属。

日本小児科学会専門医。